

一 士師  
聖徒伝 67

# 「約束を忘れた 約束の民」

士師記1～2章

イスラエルのその後

## 【今日のアウトライン】

0. イントロダクション

I. 継続された戦い 1章

II. 主の宣告 2章

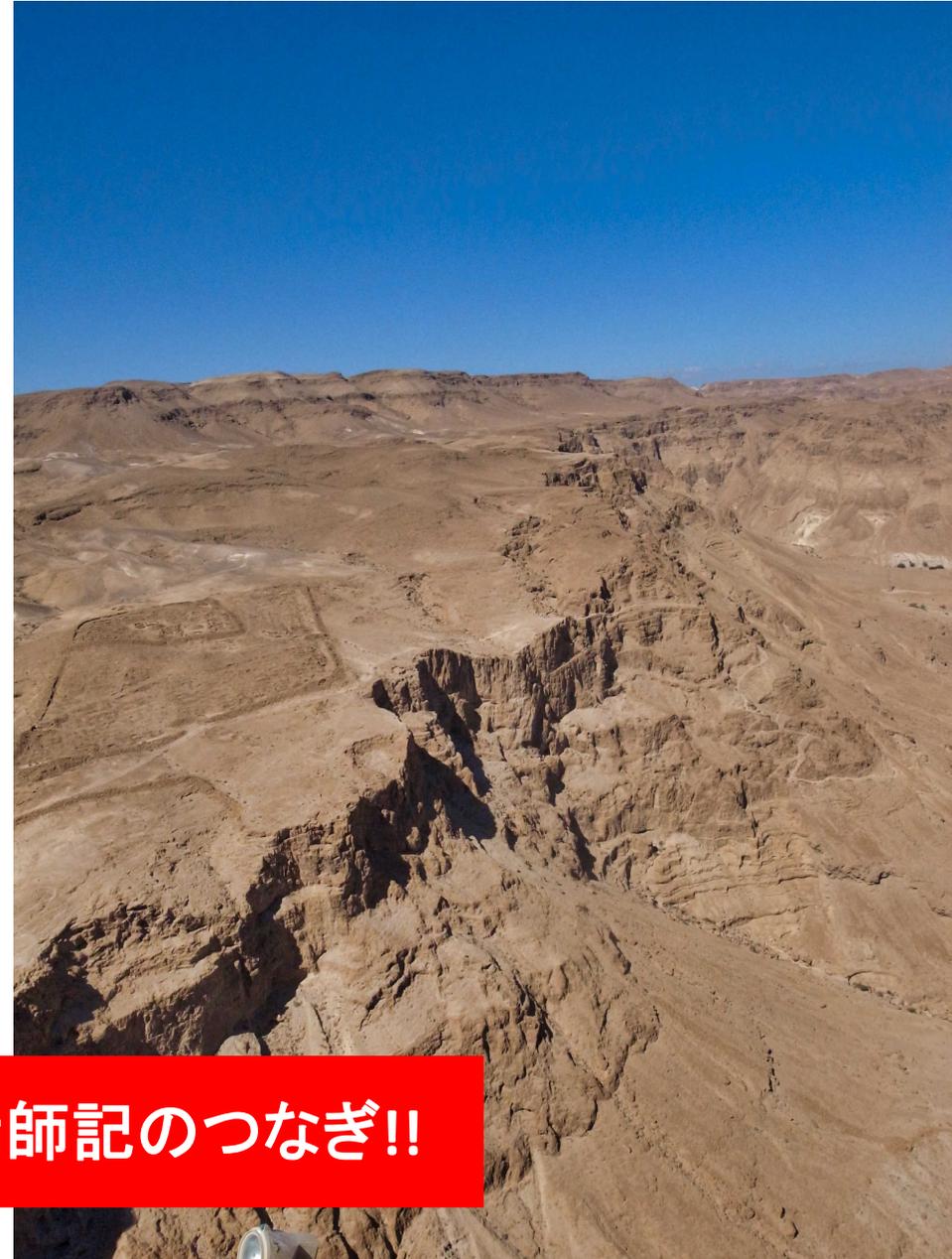
III. まとめと適用

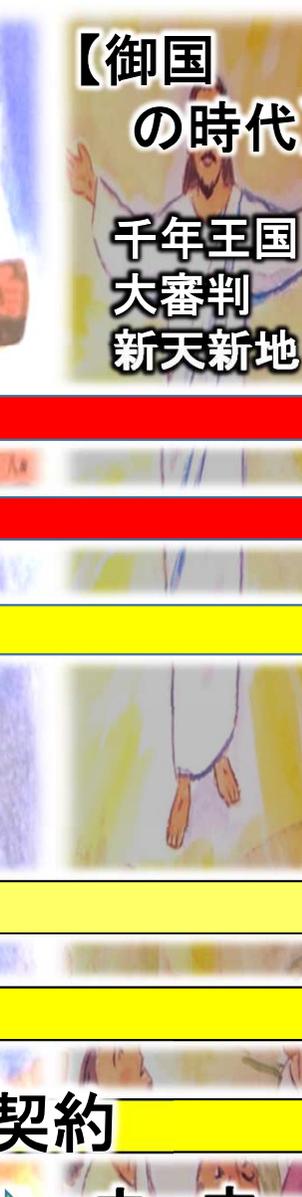
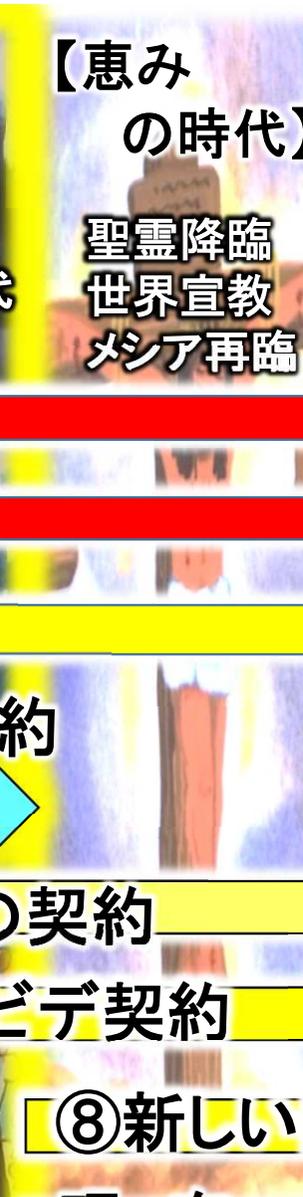
士師とは、何者か？

深い罪の懲らしめの中にも

憐れみを注がれ続ける主

今日の内容は、ヨシュア記と士師記のつなぎ!!





【無垢の時代】

【良心の時代】

【人類統治の時代】

【約束の時代】

【律法の時代】

【恵みの時代】

【御国の時代】

天地創造

墮罪  
~大洪水

バベルの塔事件

アブラハム  
~ヤコブ

イスラエル  
王国時代  
メシア初臨

聖霊降臨  
世界宣教  
メシア再臨

千年王国  
大審判  
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

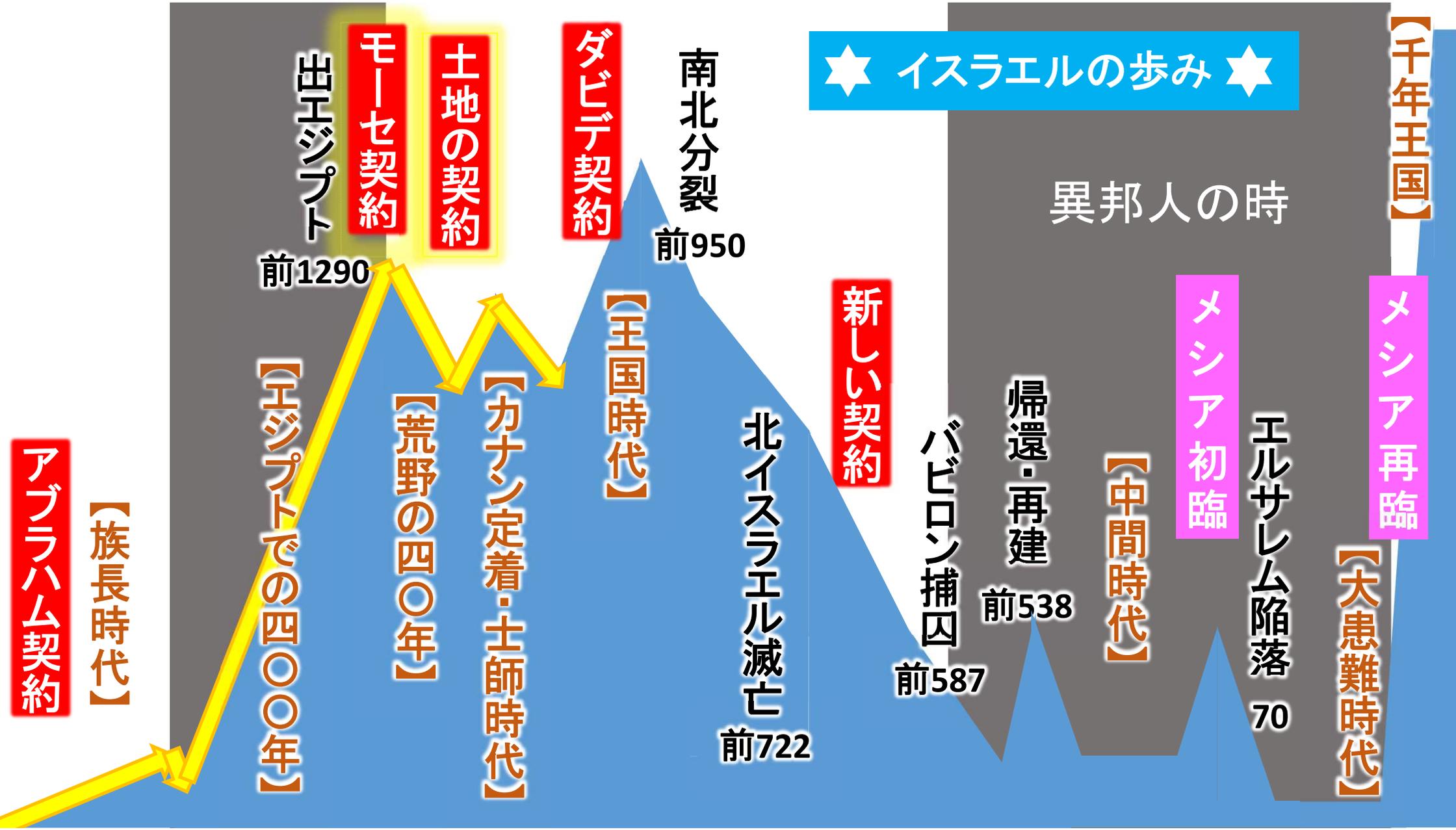
神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

★ イスラエルの歩み ★



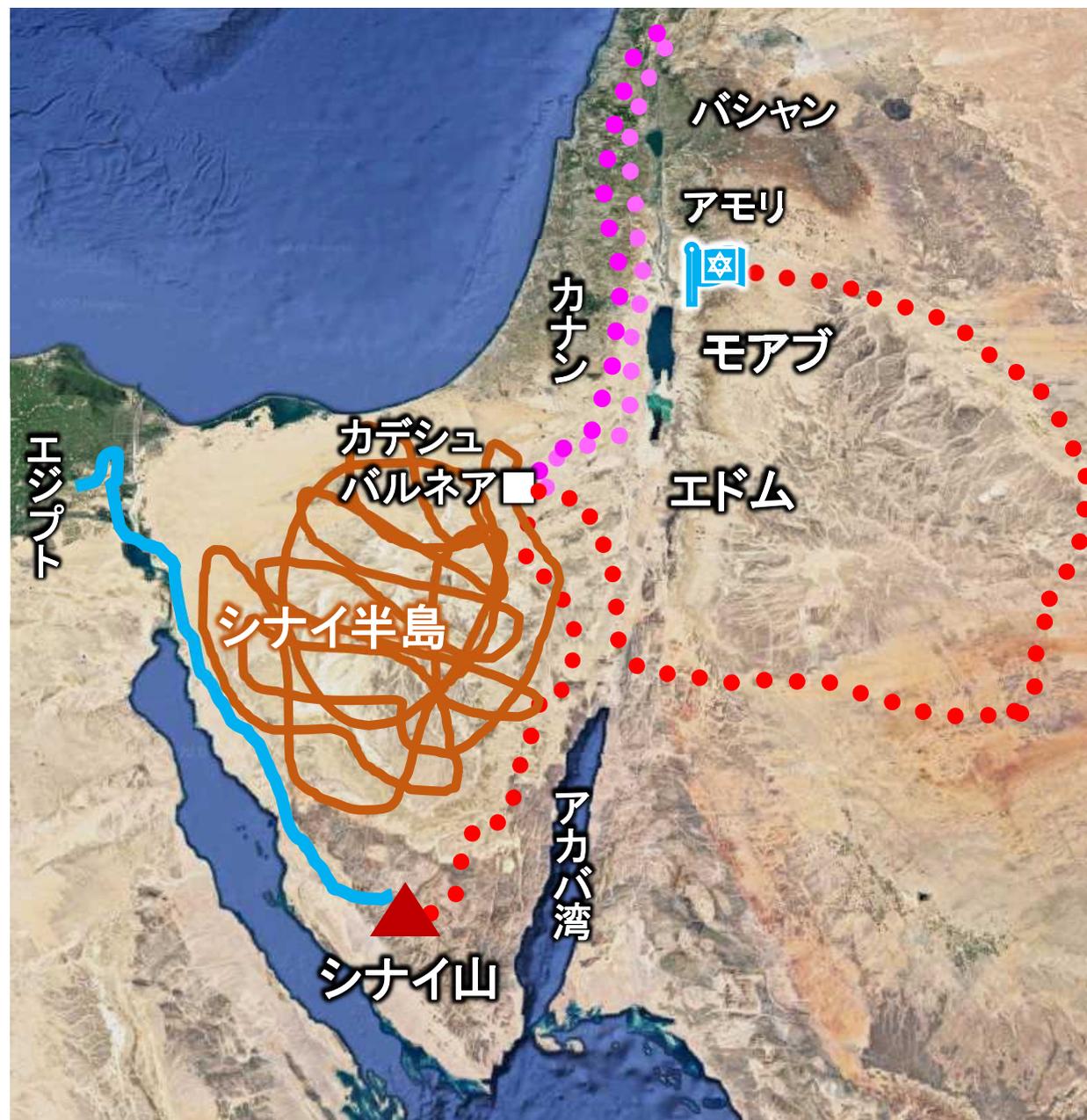
## 【イスラエルの荒野の40年】

■ エジプトを脱出、シナイ契約を結び、律法を与えられ、神の民となったイスラエル。

■ しかし、神に反逆し、その世代の者は、荒野で死に絶えた。

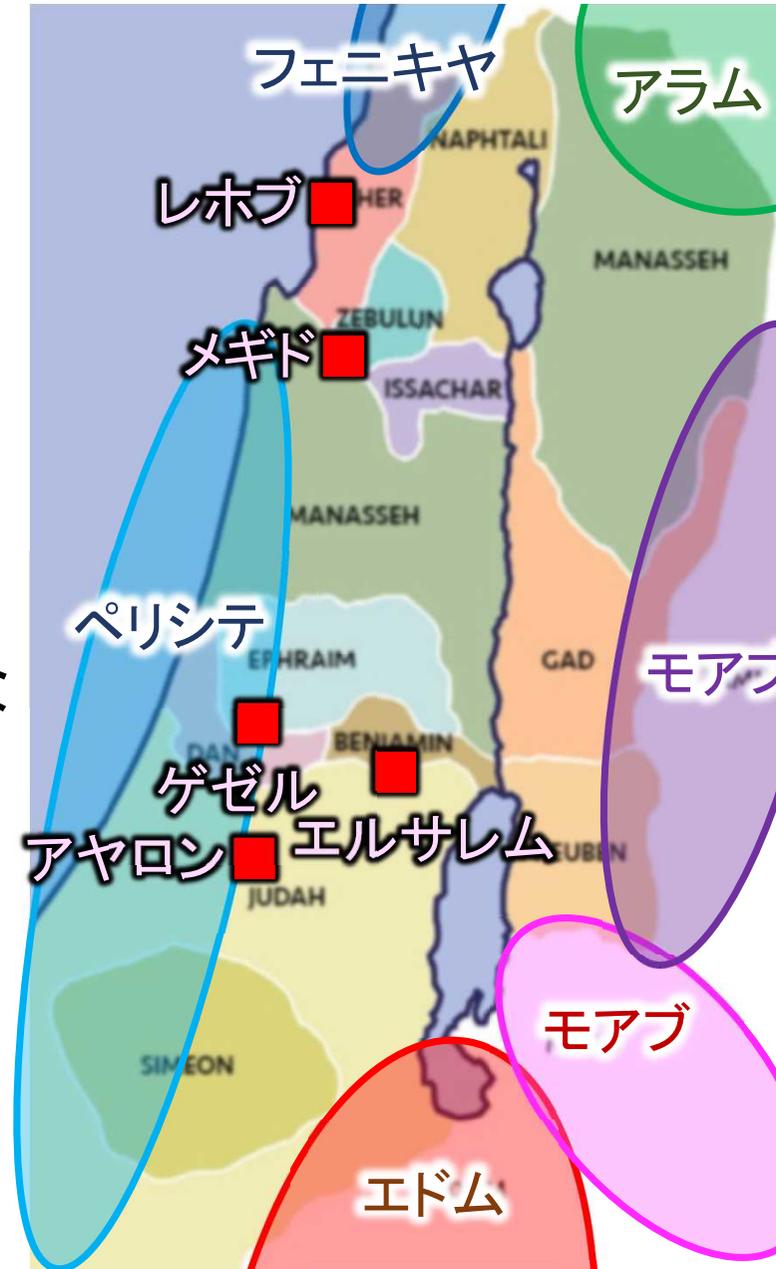
■ 40年の放浪の末、約束の地ヨルダン川東岸に到達した。

■ カナンの東部を征服し、いよいよヨルダン川を渡った。



## 【残された土地】

- ヨシュアに率いられたイスラエルは、12部族それぞれの相続地を手に入れた。
- しかし、未征服の地がまだ多く残っていた。
- カナン人の町が要所にあり、周囲にも、強力な民族がいて、イスラエルを脅かしていた。



# I. 継続された戦い

## 士師記1章

ヨシュアの相続地



## 【ヨシュアの死後も続く戦い】 士師1:1～2

ヨシュアの死後、イスラエルの子らは【主】に尋ねた。「だれが私たちのために最初に上って行って、カナン人と戦うべきでしょうか。」

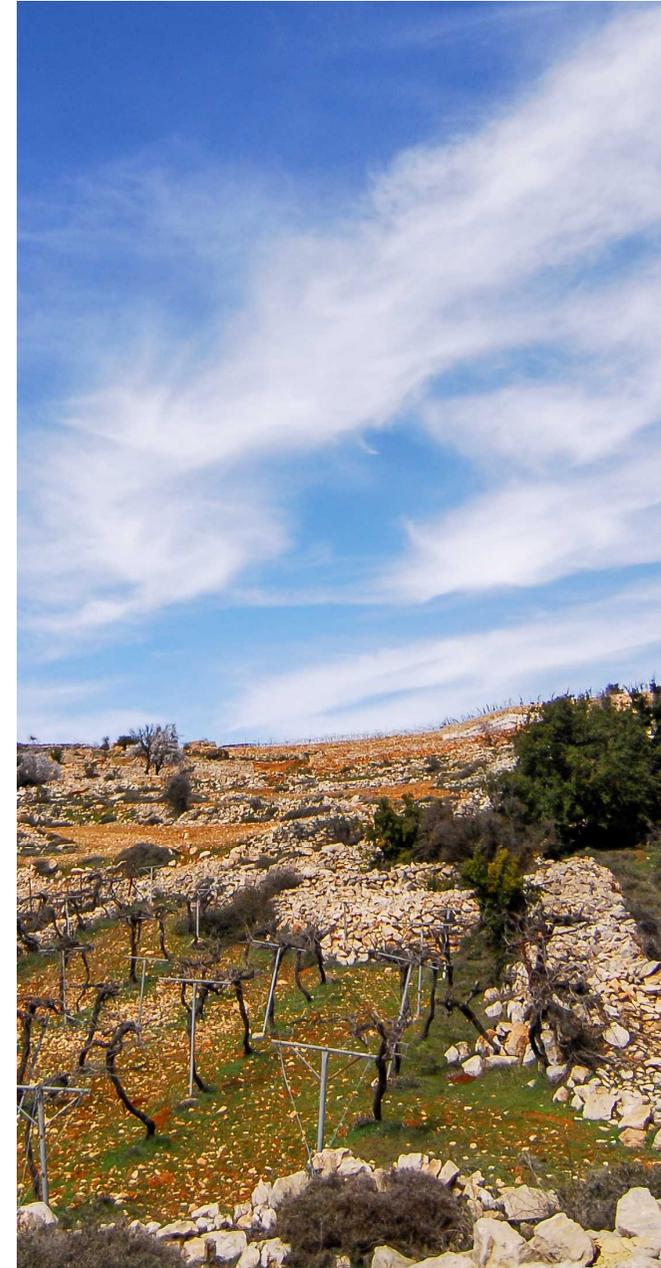
すると、【主】は言われた。「ユダが上って行くべきである。見よ、わたしはその地を彼の手に渡した。」

■ヨシュアを継ぐイスラエルの指導者はいなかった。

➡各部族が、自分たちの戦いを継続する必要がある!!

■まず戦いに押し出されたのがユダ族だった。

➡後にメシアを輩出する部族に相応しい戦いへ。



【ユダ族とシメオン族】 士師1:3～4

ユダは自分の兄弟シメオンに言った。\*

「私と一緒に、私に割り当てられた地の上ってください。私たちはカナン人と戦うのです。私も、あなたに割り当てられた地と一緒にいきます。」そこでシメオンは彼と一緒にいった。ユダが上って行くと、【主】はカナン人とペリジ人を彼らの手に渡されたので、彼らはベゼク\*で一万人を討ち取った。

\* 四男ユダ、次男シメオン ...共にレアの子。

ユダの土地に、シメオンは飛び地を持っていた。

\* ベゼクがどこかは不明。



## 【ベゼク王の末路】 士師1:5～7

彼らはベゼクでアドニ・ベゼク\*に出会い、彼と戦ってカナン人とペリジ人を討った。ところが、アドニ・ベゼクが逃げたので、彼らは後を追って捕らえ、その両手両足の親指を切り落とした。

アドニ・ベゼクは言った。「かつて、両手両足の親指を切り落とされた七十人の王たちが、私の食卓の下でパン屑を拾い集めていたものだ。私がしたとおりに、神は私に報いを返された。」

彼らはアドニ・ベゼクをエルサレムに連れて行き、彼はそこで死んだ。

\* **ベゼクの王の称号。**“**ベゼクの王**”の意味。

■ **主ご自身が、ベゼク王を裁かれた。**



悔い改めたなら、  
ベゼク王も  
救われただろう。

## 【エルサレムの支配権】 士師1:8,21

1:8 ユダ族は、エルサレムを攻めてこれを取り、剣の刃で討って町に火を放った。

1:21 エルサレムに住んでいるエブス人に関しては、ベニヤミン族がこれを追い払わなかったので、エブス人は今日までベニヤミン族とともにエルサレムに住んでいる。

■ヨシュアが打ち取った南部の5人の王の一人がエルサレムの王。町は攻め取れなかった。  
(ヨシュア10:23)

■ベニヤミン族が治めたが、エブス人が奪還。  
➡最終的な占領は、ダビデ王による。



百年前のエルサレムへの街道

## 【ユダ族の南部の戦い】 士師1:9,10～11

その後、ユダ族は、山地やネゲブやシェフェラに住んでいるカナン人と戦うために下って行った。

■ 10～15節は、南部の戦い(ヨシュア10章)の再録。ユダはヘブロン\*に住んでいるカナン人を攻めた。ヘブロンの名は、かつてはキルヤテ・アルバであった。彼らはシェシャイとアヒマンとタルマイを討った。彼らは、そこから進んでデビルの住民を攻めた。デビルの名は、かつてはキルヤテ・セフェルであった。

\* 勇者カレブがヘブロンを征服。(ヨシュア14章)。



## 【オテニエルとアクサ】 士師1:12～15

そのときカレブは言った。「キルヤテ・セフェルを討って、これを攻め取る者に、私の娘アクサを妻として与えよう。」カレブの同族ケナズの子オテニエルがそれを攻め取ったので、カレブは娘アクサを彼に妻として与えた。

嫁ぐとき、彼女は夫に、自分の父に畑を求めよう、しきりに促した。彼女がろばから降りると、カレブは「何が欲しいのか」と彼女に言った。アクサは彼に言った。「どうか私にお祝いを下さい。ネゲブの地を私に下さるのですから、湧き水を下さい。」そこでカレブは上の泉と下の泉を彼女に与えた。

■ヨシュア15章の再録。重要な出来事だと分かる。

勇敢で謙遜な夫と  
賢い妻の話として  
語り継がれていた?!



ヘブロン  
のブドウ畑

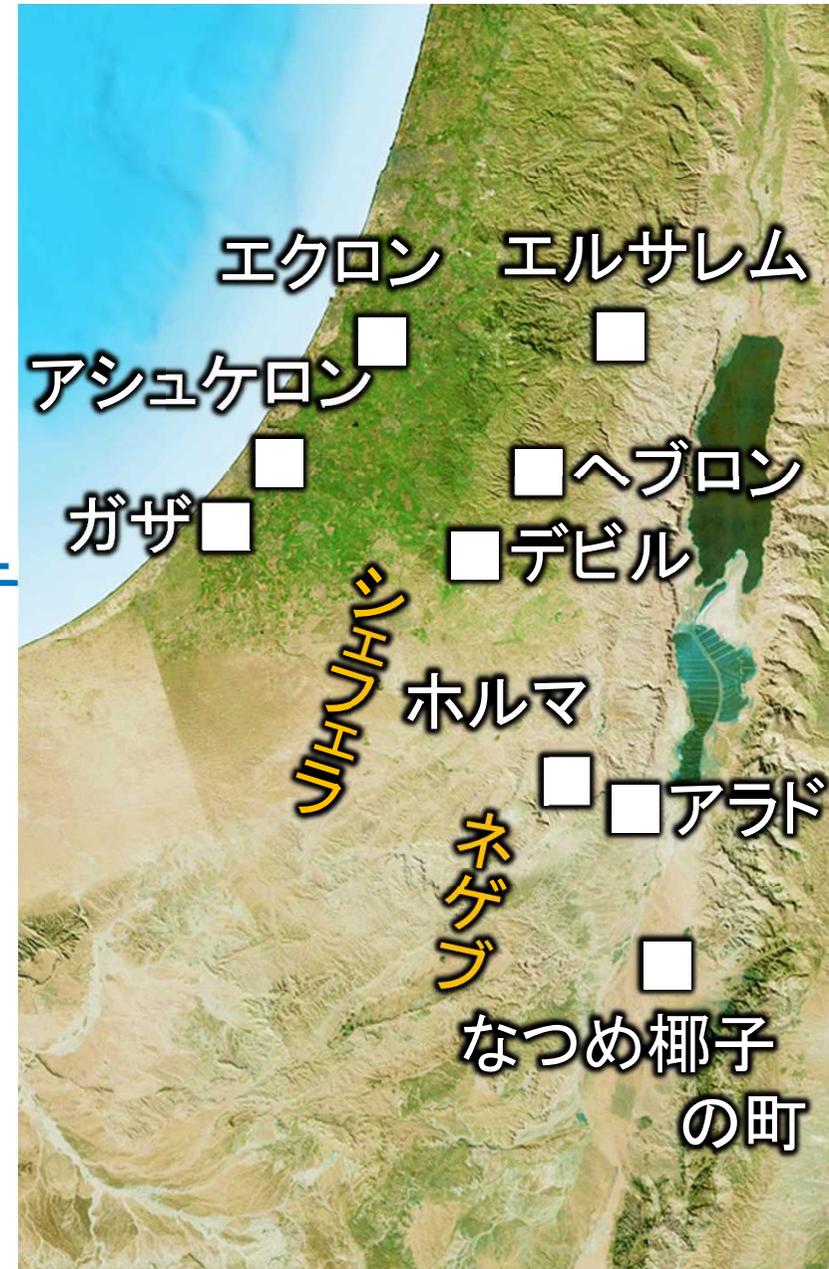
【さらなる南部の占領地】 士師1:16～18

モーセのしゅうとがその一族であるケニ人\*たちは、ユダ族と一緒に、なつめ椰子の町からアラドの南にあるユダの荒野に上って行き、その民とともに住んだ。

ユダは兄弟シメオンと一緒に行って、ツェファテに住んでいたカナン人を討ち、それを聖絶し、その町にホルマという名をつけた。

ユダは、ガザとその地域、アシュケロンとその地域、エクロンとその地域を攻め取った。

\* ルーツは、アブラハムの子孫・ミディアン人。



## 【南部の戦いの結果】 士師1:19～21

【主】がユダとともにおられたので、ユダは山地を占領した。しかし、平地の住民は鉄の戦車を持っていたので、ユダは彼らを追い払えなかった。モーセが約束したとおり、ヘブロンはカレブに与えられ、カレブはそこからアナクの三人の息子を追い払った。エルサレムに住んでいるエブス人に関しては、ベニヤミン族がこれを追い払わなかった。エブス人は今日までベニヤミン族とともにエルサレムに住んでいる。

- アナク人は追い出したが、ペリシテ人は残った。他にもエブス人など残った民がいた。



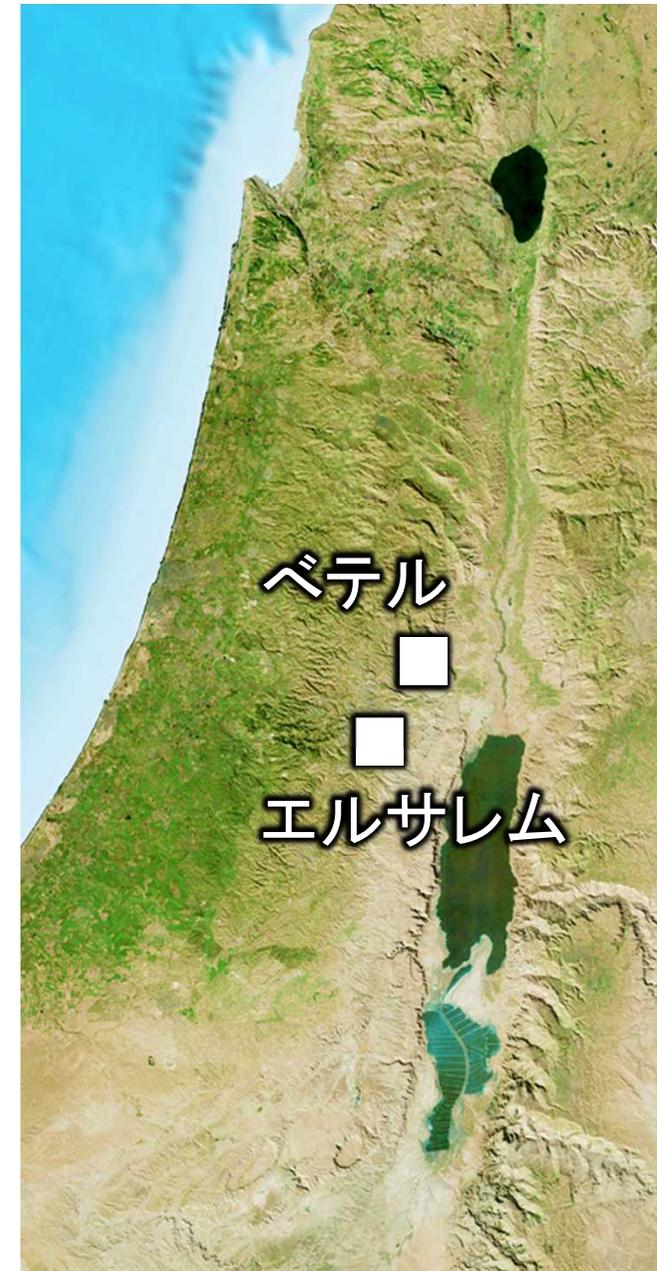
## 【ヨセフ族の戦い・ベテル】 士師1:22～26

ヨセフの一族もまた、**ベテル**に上って行った。【主】は彼らとともにおられた。ヨセフの一族はベテルを探った。この町の名は、かつてはルズであった。

見張りの者たちは、その町から出て来た人を見て言った。「この町に入るところを教えてください。そうすれば私たちも、あなたに誠意を尽くすから。」

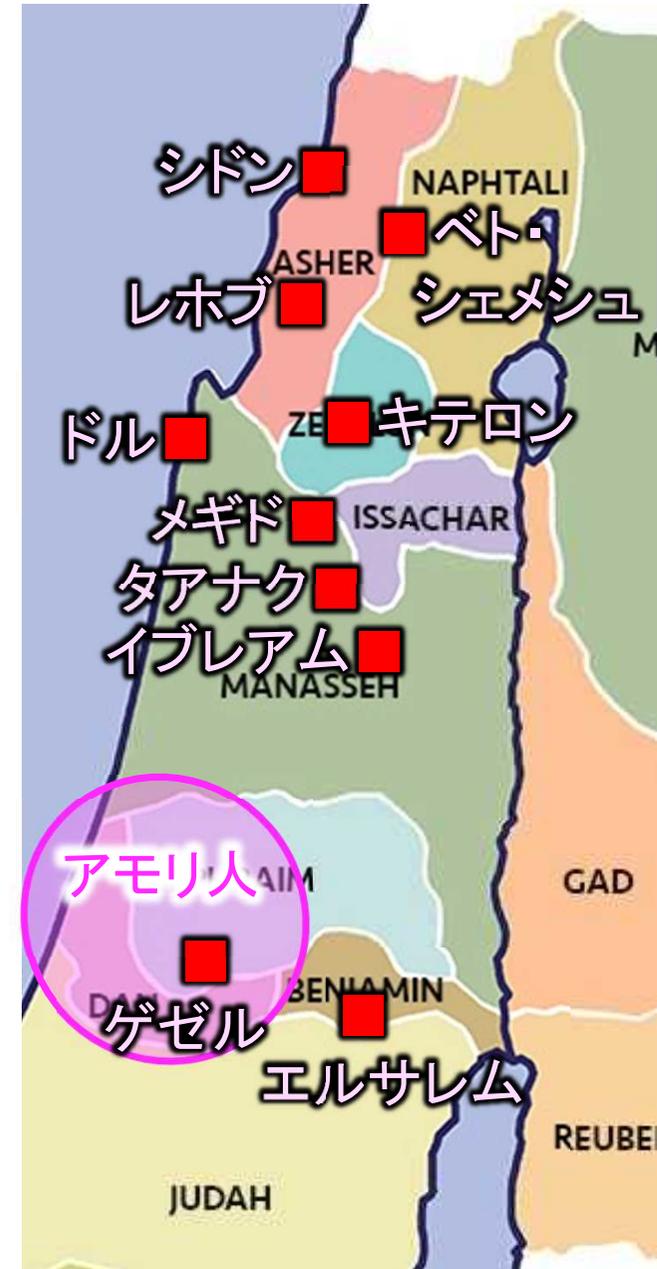
彼が町の出入り口を教えたので、彼らは剣の刃でこの町を討った。しかし、その人とその氏族の者はみな自由にしてやった。その人はヒッタイト人の地に行って町を建て、その名をルズと呼んだ。これが今日までその名である。

**\* ベテル ...アブラハム、ヤコブゆかりの重要拠点**



## 【残された町々】 士師1:27～36

- 勢力の強いユダ族、ヨセフ族以外の部族の相続地には、さらに多くの土地が残されたままだった。
- 分割された相続地をどれだけ占領できたか。各々の部族の信仰が、反映されている。  
➡カレブは、相続地を完全に手に入れた!!
- クリスマン自身の内にある多くの未占領地。  
➡私たちは、信じて救われ、信じて成長していく。
- ★ 内住される聖霊を信頼し、ゆだねた結果が、クリスマンの信仰の成長となって現れる。



# Ⅱ. 主の宣告

# 士師記2章



## 【主の叱責】 士師2:1～2

【主】の使い\*がギルガルからボキム(ベテル)に上って来た。そして言った。「わたしはあなたがたをエジプトから上らせて、あなたがたの父祖たちに誓った地に連れて来て言った。

『わたしはあなたがたと結んだわたしの契約を決して破らない。あなたがたは、この地の住民と契約を結んではならない。彼らの祭壇を打ち壊さなければならない。』ところが、あなたがたはわたしの声に聞き従わなかった。なぜこのようなことをしたのか。

\* 主の使い ...受肉前の子なる神。エリコ攻略前には、ギルガルでヨシュアの前に現れた。



## 【主の宣告】 士師2:3～6

それでわたしも言う。『わたしはあなたがたの前から彼らを追い払わない。彼らはあなたがたの敵となり、彼らの神々はあなたがたにとって罾となる。』

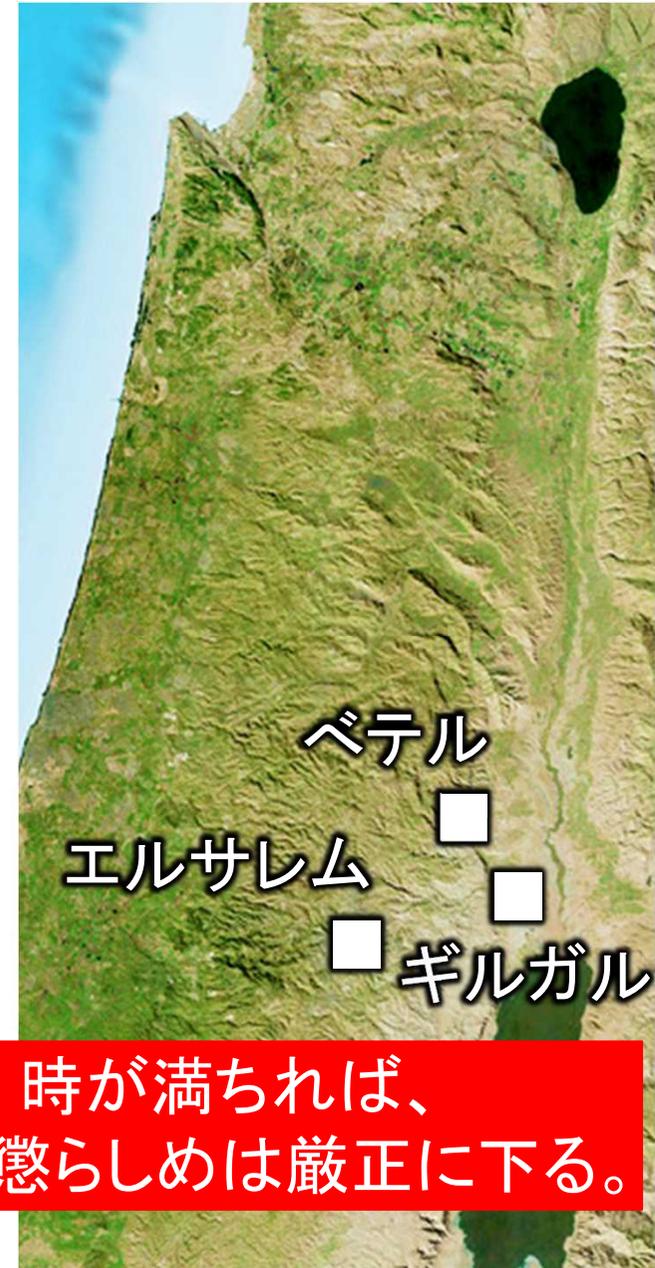
【主】の使いがこれらのことばをイスラエルの子ら全体に語ったとき、民は声をあげて泣いた。

彼らはその場所の名をボキムと呼んで、その場所で【主】にいけにえを献げた。

■ 民数記33:55、ヨシュア記23:13。

何度も主に警告された通りの懲らしめが、ついにイスラエルにくだされた。

時が満ちれば、  
主の懲らしめは厳正に下る。



## 【世代交代】 士師2:7～10

ヨシュアがいた間、また、【主】がイスラエルのために行われたすべての大いなるわざを見て、ヨシュアより長生きした長老たちがいた間、民は【主】に仕えた。

【主】のしもべ、ヌンの子ヨシュアは百十歳で死んだ。人々は彼をガアシユ山の北、エフライムの山地にある、彼の相続地の領域にあるティムナテ・ヘレスに葬った。

その世代の者たちもみな、その先祖たちのもとに集められた。そして彼らの後に、【主】を知らず、主がイスラエルのために行われたわざも知らない、別の世代が起こった。



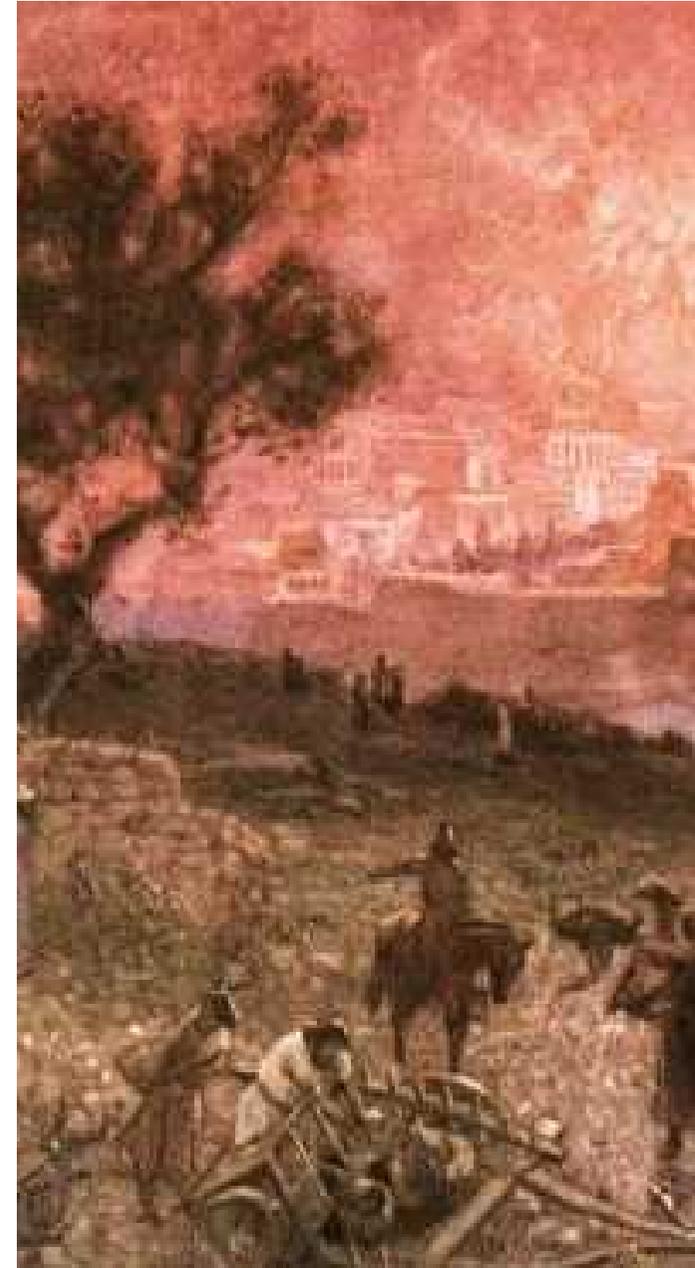
## 【偶像礼拝への神の裁き】 士師2:11～16

すると、イスラエルの子らは【主】の目に悪であることを行い、もろもろのバアルに仕えた。

彼らは、エジプトの地から自分たちを導き出した父祖の神、【主】を捨てて、ほかの神々、すなわち彼らの周りにいるもろもろの民の神々に従い、それらを拝んで、【主】の怒りを引き起こした。

彼らが【主】を捨てて、バアルとアシュタロテに仕えたので、【主】の怒りがイスラエルに向かって燃え上がり、主は彼らを略奪する者の手に渡して略奪されるままにし、周りの敵の手に彼らを売り渡された。彼らはもはや、敵に立ち向かうことができなかった。

彼らがどこへ行っても、【主】の手は彼らにわざわいをもたらした。【主】が告げ、【主】が彼らに誓われたとおりであった。彼らは大いに苦しんだ。

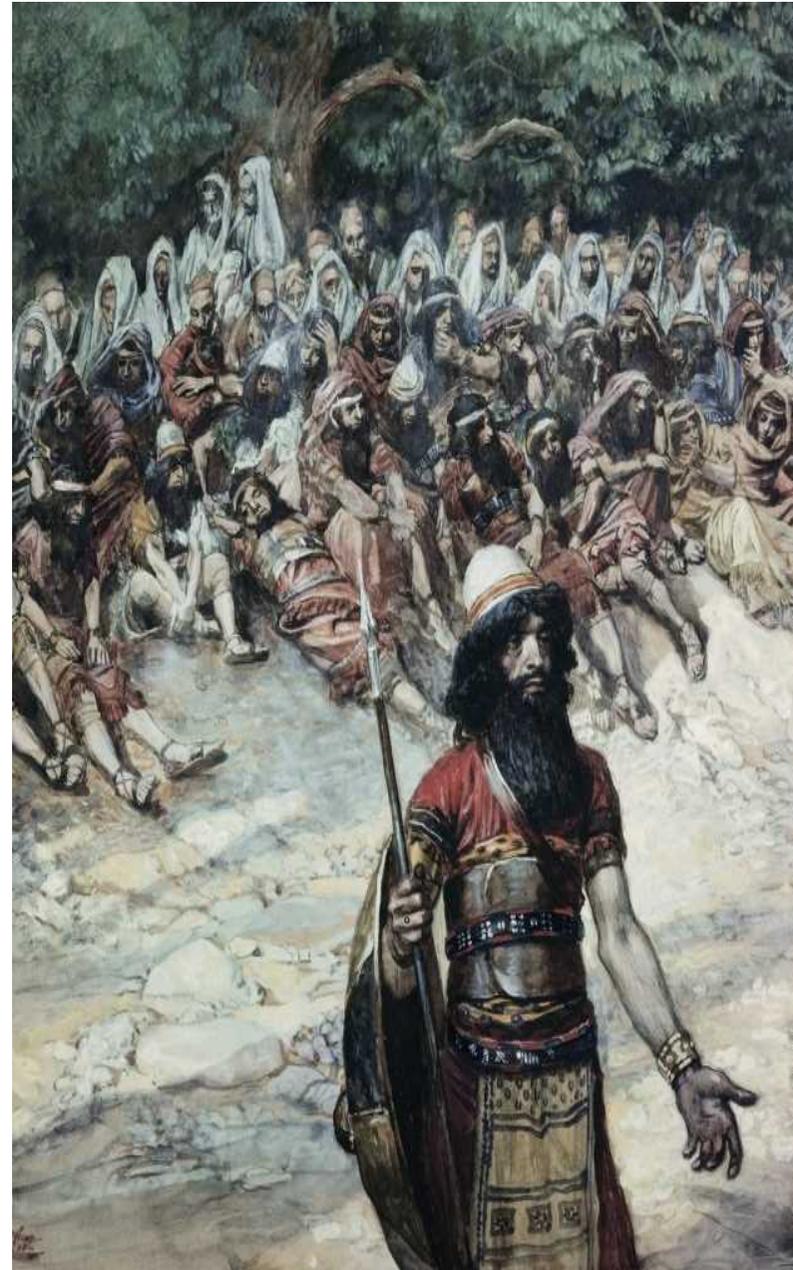


【主が遣わされたさばきつかさ】 士師2:16～17  
そのとき、【主】はさばきつかさ\*を起こして、略奪する者の手から彼らを救われた。

ところが、彼らはそのさばきつかさ\*にも聞き従わず、ほかの神々を慕って淫行を行い、それらを拝んだ。彼らの先祖が【主】の命令に聞き従って歩んだ道から早くも外れて、先祖たちのようには行わなかった。

\* さばきつかさ(裁き司) ...士師。

■ 士師は、イスラエルの一部族のリーダー。裁判官、行政官、軍の士官であり、苦しむ民の解放者、救済者でもあった。



【繰り返されるイスラエルの過ち】 士師2:18～19

【主】が彼らのためにさばきつかさを起こしたとき、  
【主】はさばきつかさとともにおられ、そのさばきつかさが生きている間、彼らを敵の手から救われた。これは、圧迫し、虐げる者を前にして彼らがうめいたので、【主】があわれまれたからである。

しかし、さばきつかさが死ぬと、彼らは元に戻って先祖たちよりもいっそう墮落し、ほかの神々に従い、それらに仕え、それらを拝んだ。彼らはその行いや、頑なな生き方から離れなかった。

■ 主は、懲らしめを与えつつも、ご自分の民を見捨てず、憐れみを注がれ続けた。

堅く保たれ続ける  
イスラエルへの主の約束



## 【燃え上がる主の怒り】 士師2:20～23

そのため、【主】の怒りがイスラエルに向かって燃え上がった。主は言われた。「この民は、わたしが彼らの先祖たちに命じたわたしの契約を破り、わたしの声に聞き従わなかったから、わたしもまた、ヨシュアが死んだときに残しておいたいかなる異邦の民も、彼らの前から追い払わない。

これは、先祖たちが守ったように、彼らも【主】の道を守って歩むかどうか、これらの国民によってイスラエルを試みるためである。」

こうして、【主】はこれらの異邦の民をただちに追い払うことをせずに残しておき、ヨシュアの手に残されなかったのである。



ますます重くなる主の懲らしめ

主は民の罪を予見し、カナン人を残されていた

## Ⅲ. まとめと適用

士師とは、何者か？  
深い罪の懲らしめの中にも  
深い憐れみを注がれ続ける主

ヨルダン川沿い・雨季の荒野の丘



## 【士師とは？】

■ 神が立てたイスラエルの一部族のリーダー。

裁判官。政治的、軍事的指導者。民の解放者、救済者。

## 【士師と、繰り返されるイスラエルの罪】

① 背信 ...偶像礼拝に取り込まれる。性的儀式、物的欲望が入り口に!!

バアル(主神)。アシュタロテ(女神)。

② 裁き ...主が、残ったままの異邦の民を用いて、イスラエルを裁かれる。

③ 悔い改め ...苦難の中から、イスラエルは主なる神に助けを求める。

④ 士師による解放 ...主は、民の叫びを聞いて士師を送り、敵を退ける。

## 【士師の時代とは？】

■ヨシュアの死後、サウル王の即位まで約200年間。背教と混沌の時代。

士師 21:25 「そのころ、イスラエルには王がなく、  
それぞれが自分の目に良いと見えることを行っていた。」

## 【現代と士師の時代】

■19世紀以降、聖書の権威は否定され、人間中心主義が世界を席卷してきた。  
啓蒙思想、進化論、科学万能主義、自由主義進学、共産主義...

■ポストモダンの時代と呼ばれる現代、多様性という掛け声の下で、  
最も重視されるのは、個人の感覚、感情。あらゆる欲望が肯定される。

➔多様性は、あくまで世の現実であって、目標にはなりえない。

力あるもの、恐怖を振りまくものがのさばり、弱者はますます虐げられる。

例) イスラム国、中国共産党、GAFA...

■今という時代は、どれほどに悪と罪に満ちているか、突きつけられている。

## 【現代的士師の時代をクリスチャンが生き抜くために】

■ イスラエルの最大の問題は、常に内側にあった。クリスチャンも同様。

■ クリスチャンの足元をすくう最大の問題は、信仰の問題。

例) 福音派の中にはびこるNARの悪影響。

■ 常に求められるのは、主の約束に固く立ち続けること。

真実の王である主イエス・キリストを信頼し、待ち望み続けること。

■ 主イエスは、十字架と復活の救いの御業を成し遂げられた。

厳正な世界の裁き主として、間もなく戻ってこられる。

すべての真の信仰者を御許に挙げられ、世界に裁きを下される。

■ すべてのクリスチャンは、主に立てられた現代の士師である。

悔い改めを迫り、福音を信じて救われるよう、人々に告げていこう。

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

人々は、自分の目によいと思うことだけをしています。罪(つみ)と闇(やみ)はますます深(ふか)まるばかりです。真実(しんじつ)の光を 必要(ひつよう)とする世界に、主よ、あなたは、こんなわたしを つかわされました。

使命(しめい)を果(は)たすため、御霊(みたま)で満(み)たしてください。

どうか、出会(であ)う人々の心をくだき、悔(く)い改(あらた)めに導(みちび)いてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」